

V 章 学校授業での指導



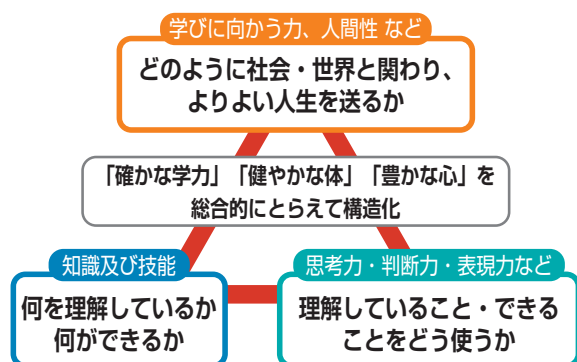
【V 章】

1. 中学校における剣道授業

(1) 学習指導要領の目指す方向性と剣道

平成 24 (2012) 年度から武道が必修となり、令和 6 (2024) 年度で 13 年目を迎えた。全国約 1 万校の中学校で柔道・剣道・相撲のいずれかを選択し授業を実施しており、さらに加えて空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道を実施することができる。これにより、競技経験や指導経験が少ない保健体育科教員も、武道の授業を実施することとなり、より安全で効果的に進められるよう工夫を凝らしながら、これまで実施してきた。文部科学省が平成 29 (2017) 年 3 月に改訂した中学校学習指導要領は、令和 3 (2021) 年度から全面実施となった。

学習指導要領改訂では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちが育むために、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していくことができるように、全ての教科などの目標及び内容を三つの柱で再整理された。(学習指導要領解説 P 3 参照)



武道の新しい学習内容では、①基礎的・基本的な「知識及び技能」②課題解決をするために必要な「思考力、判断力、表現力など」③「学びに向かう力、人間性など」子どもたちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を活かし、学習の質を一層高める授業改善の

取り組みを活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。

武道の授業においては、引き続き、第 1 学年及び第 2 学年において必修とされ、「技能」の内容が、「基本となる技ができる」から「簡易な攻防を展開することができる」に変更されるとともに、例示される技が精選された。武道の特性は一对一の攻防にあるので、生徒一人一人に攻防する楽しさを味わわせることが強調されての変更と考えられる。

さらに、令和 2 (2020) 年 3 月に文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センターより示された「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」として、評価に関する具体的な考え方が示された。

学習評価とは、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものである。「生徒にどういった力が身についたか」という学習評価を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取り組みを進めることが求められる。学習評価の基本的な考え方として以下の 2 つが示された。

①「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価」

各学校は、日々の授業において生徒の学習状況を評価し、その結果を生徒の学習や教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善などに活かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図らなければならない。「学習指導」と「学習評価」は学校教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。

②「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価」

指導と評価の一体化を図るためには、生徒一人

一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に活かしていくことが大切である。特に、今回の改定で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じて各教科などにおける資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。

全日本剣道連盟では、より多くの中学生が剣道の授業を経験することを期待しており、保健体育科教員や授業協力者の先生方が本指導書の活用により、武道（剣道）の必修化の目的を達成できることが望まれる。

（2）授業協力者の指導や支援の心得

学校は、教育目標を明確にして、知・徳・体のバランスのとれた人間の育成に向け、組織的、かつ計画的に教育活動を進めている。グローバル社会・高度情報化社会といわれ非常に便利になったものの功罪相半ばし、少子高齢化問題など先行き不安な現況があるからこそ、将来を展望してこれからの世の中を担っていく、清く正しく逞しい人材を育てていくことが求められている。学校での学びはもとより、生涯を通じた学びに視野を広げつつ、知恵と品格を備えさせ、人と人とのつながり、支え合うことの大切さを学ばせることで「生きる力」の育成を目指している。中学校における保健体育の授業で剣道を学ぶ生徒は、保健体育が苦手な生徒や剣道に対して興味・関心のない生徒も当然存在する。生徒が「楽しい、もっと学びたい」という意欲につながる指導や支援をすることは、生徒自身に専門的な知識や技能が身につくことで自信につながり、学校生活により一層明るく積極的に取り組むなどの効果が期待できる。授業協力者は生徒の有意義な学習活動に貢献できるように、学校の教育方針に基づき「生徒一人一人を大切に」という考えを持ち指導および支援が望まれる。

（3）授業協力者の指導における留意点

学校の教育方針に基づいた指導の一翼を担えるよう支援に努め、担当教員との相談や連携、生徒に関する情報交換など、担当教員と連携を密にし

ておくことが大切である。

- ①中学生は思春期であることから身体的・精神的な悩みを抱えている生徒も存在する。個々の生徒の学習意欲には違いがあるなど、様々な生徒の実態に配慮することが必要である。
- ②指導内容と生徒の実態を合致させ、担当教員との事前の打ち合わせや次の指導の確認を行うこと。
- ③説明は一度に多くのことを指導せずに、生徒の理解度に合わせて端的に分かりやすく説明し、褒めて伸ばす指導を心がけること。
- ④授業協力者は生徒の評価・評定は行わないが、教員から相談された場合は適切に助言すること。
- ⑤生徒の個人情報や学校で知り得た情報などを漏らさないこと（守秘義務があることを自覚する）。
- ⑥威圧や腕力で指導を行わない。特に体罰・暴言は、生徒の心身に深い傷を残すことを理解して指導にあたること。
- ⑦生徒の多くは、初めて剣道を経験することになるので、剣道はおもしろい、楽しいと感じ、剣道を継続して行ってみたいと思えるよう指導することが望ましい。
- ⑧剣道具の不備や竹刀の破損などが無いよう、授業前のみならず授業中においても安全管理には十分に留意して指導にあたること。



中学校学習指導要領の内容 剣道

1 発達の段階に応じた指導内容の整理

① 知識 及び 技能 ―質の高まり―

中学校第1学年及び第2学年	中学校第3学年 高等学校入学年次
技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。

―身につけさせたい具体的な内容（動きの様相）―

中学校第1学年及び第2学年	中学校第3学年 高等学校入学年次
剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすること。	剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりすることなどの攻防をすること。

② 思考力、判断力、表現力など

中学校第1学年及び第2学年	中学校第3学年 高等学校入学年次
攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

③ 学びに向かう力、人間性など

中学校第1学年及び第2学年	中学校第3学年 高等学校入学年次
武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど、健康・安全に気を配ること。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。

2 剣道の単元目標

① 知識 及び 技能

第1学年及び第2学年

技ができる楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防ができるようにする。

第3学年

技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防ができるようにする。

② 思考力、判断力、表現力など

第1学年及び第2学年

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

第3学年

攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

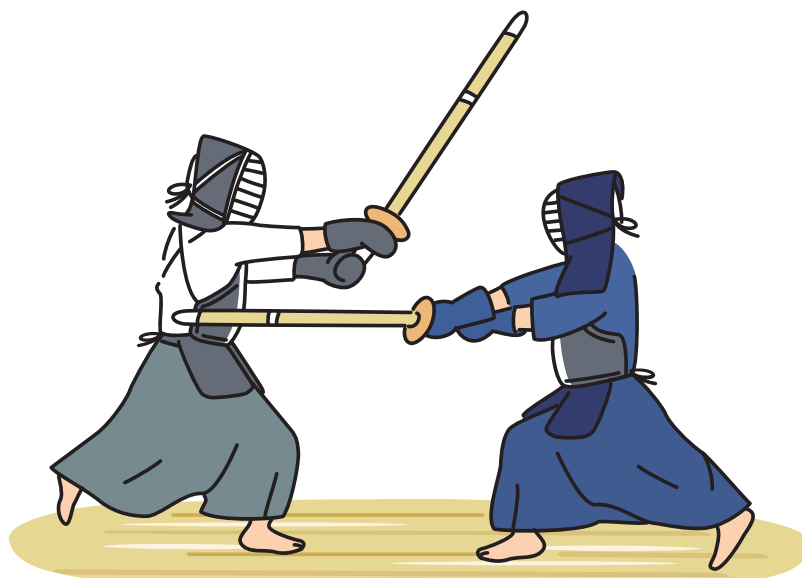
③ 学びに向かう力、人間性など

第1学年及び第2学年

剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。

第3学年

剣道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保することができるようにする。



3 指導内容

	第1学年及び第2学年	第3学年
知識	● 剣道の特性や成り立ち ● 伝統的な考え方 ● 技の名称や行い方 ● その運動に関連して高まる体力	● 伝統的な考え方 ● 技の名称や見取り稽古の仕方 ● 体力の高め方 など（例・試合の行い方）
技能	相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすること。 〔例示〕 ● 基本動作 ・ 構えでは、相手の動きに応じて自然体で中段 ・ 体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足 ・ 基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりする ● しかけ技 ＜連続技（二段の技）＞ ・ 小手一面 ・ 面一胴 ＜引き技＞ ・ 引き胴 ● 応じ技 ＜抜き技＞ ・ 面抜き面 「形」の取扱いを工夫することも効果的である	相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手を崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすること。 〔例示〕 ● 基本動作 ・ 構えでは、相手の動きの変化に応じて自然体で中段 ・ 体さばきでは、相手の動きの変化に応じて体の移動 ・ 基本打突の仕方と受け方では、体さばきや竹刀操作を用いて打ったり、応じ技へ発展するように受けたりする ● しかけ技 ＜連続技（二段の技）＞ ・ 面一面 ＜引き技＞ ・ 引き面 ＜出ばな技＞ ・ 出ばな面 ＜払い技＞ ・ 払い面 ● 応じ技 ＜抜き技＞ ・ 小手抜き面
思考、判断、表現など	● 攻防などの自己の課題を発見する ● 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する ● 自己の考えたことを他者に伝える 〔例示〕 ・ 提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えること ・ 提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選ぶこと ・ 学習した安全上の留意点を他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること ・ 練習の場面で、仲間の伝統的な所作などのよい取り組みを見つけ、理由を添えて他者に伝えること ・ 体力や技能の程度、性別などの違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見つけ、仲間に伝えること	● 攻防などの自己や仲間の課題を発見する ● 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する ● 自己の考えたことを他者に伝える 〔例示〕 ・ 見取り稽古などから、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、練習の成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること ・ 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること ・ 選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶこと ・ 健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法などについて振り返ること ・ 相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返ること ・ 体力や技能の程度、性別などの違いに配慮して、仲間とともに武道を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけること ・ 武道の学習成果を踏まえて自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見つけること
学びに向かう力、人間性など	● 武道に積極的に取り組む ● 相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守ろうとする ● 分担した役割を果たそうとする ● 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする ● 禁じ技（突き技）を用いない ● 健康・安全に気を配る	● 武道に自主的に取り組む ● 相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ● 自己の責任を果たそうとする ● 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする ● 健康・安全を確保する

4 指導内容の技能について

●は重要指導の時期として設定したもの			中学校	
			1・2年	3年
基本動作	構え	自然体	●	○
		中段の構え	●	○
	体さばき	歩み足	●	○
		送り足	●	○
		体の移動		●
		竹刀操作		●
基本となる技	しかけ技	基本打突の打ち方(打たせ方)と受け方	面 胴 小手 打突の受け方 間合の取り方 応じ技の受け方	○ ○ ○ ○ ● ●
		連続技(二段の技)	面一胴	○
			小手一面	○
			面一面	●
		引き技	引き面	●
			引き胴	○
		出ばな技	出ばな面	●
	応じ技	払い技	払い面	●
		抜き技	面抜き胴	○
			小手抜き面	●
		攻防の展開	自由練習	●
			ごく簡易な試合	○
			簡易な試合	●

評価について

1 学習評価について

■ 指導と評価の一体化

● 学習評価の基本的な考え方

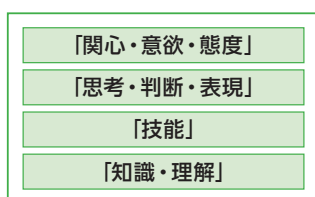
- (1) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価
- (2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

● 学習評価の基本構造 (令和2年3月：文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター)

(1) 観点別学習状況の評価における観点別の整理

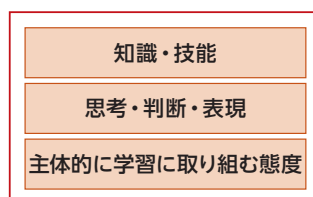
改訂では、各教科等の目標を資質・能力の三つの柱で再整理しており、目標に準拠した評価を推進するため、観点別評価について、3観点に整理された。(中学校学習指導要領解説総則編より)

[平成20年改訂版]



【参考】学校教育法第30条第2項

[平成29年改訂版]

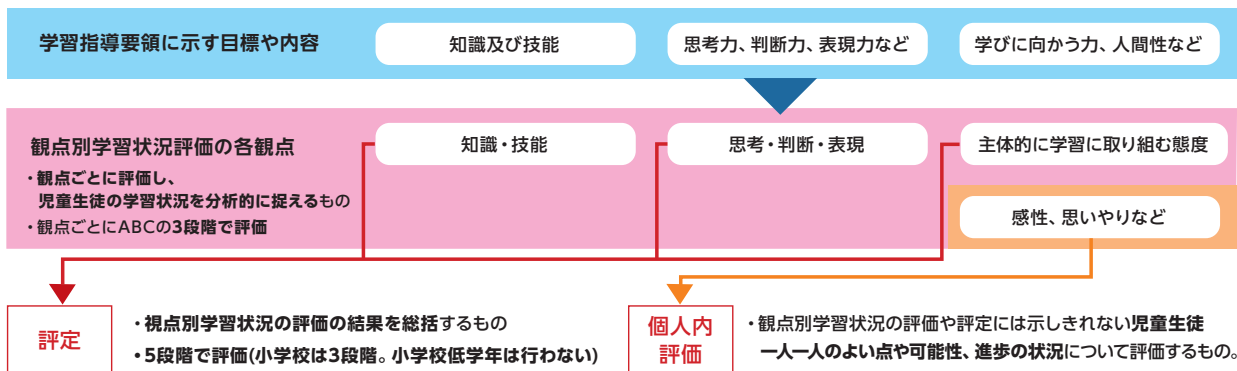


生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な**知識及び技能**を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力、判断力、表現力**その他の能力をはぐくみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

● 学習評価の基本構造 (令和2年3月：文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター)

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況の評価するもの(目標準拠評価)
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



ア「知識・技能」の評価

- ・学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価する。
- ・それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念などとして理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

イ「思考・判断・表現」の評価

- ・知識及び技能を活用して課題を解決するなどのために必要な「思考力、判断力、表現力など」を身につけているかどうかを評価する。

ウ「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・知識及び技能を習得したり、「思考力、判断力、表現力など」を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

※なお、各教科によって、評価の対象に特性があることに留意する必要がある。例えば、体育・保健体育科の運動に関する領域においては、公正や協力などを、育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、各教科などの目標や内容に対応した学習評価が行われることとされている。

2 評価規準について

■ 武道（剣道）〔第1学年及び第2学年〕

〔学習指導要領の内容〕

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたったりするなどの簡易な攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 武道に積極的に取り組むとともに相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。

● 武道内容のまとめりととの評価規準（令和2年3月：文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解している。 ○技能 剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたったりするなどの簡易な攻防をすることができる。	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配っている。

● 武道の単元の評価規準の設定例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 武道は対人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることについて、言ったり書き出したりしている。 ② 武道には技能の習得を通じて、人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ③ 武道の技には名称があり、それぞれの技を身につけるための技術的なポイントについて、学習した具体例を挙げている。 ④ 武道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ⑤ 試合の行い方について、ごく簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。	○基本動作 ① 構えでは、相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。 ② 体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。 ③ 基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすることができる。 ○しかけ技 <二段の技> ④ 最初の小手打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つことができる。（小手一面） ⑤ 最初の面打ちに相手に対応したとき、隙ができた胴を打つことができる。（面一胴） <引き技> ⑥ 相手と接近した状態にあるとき、隙ができた胴を退きながら打つことができる。（引き胴） ○応じ技 <抜き技> ⑦ 相手が面を打つとき、体をかわして隙ができた胴を打つことができる。（面抜き胴）	① 武道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ② 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③ 用具などの準備や後片づけ、審判などの分担した役割を果たそうとしている。 ④ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ⑤ 禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。

■ 武道（剣道）〔第3学年〕

〔学習指導要領の内容〕

- (1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。
 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。

● 武道内容のまとめりと評価規準（令和2年3月：文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）

知識 ・ 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保したりしている。

● 武道の単元の評価規準の設定例

知識 ・ 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①武道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていくうえで有意義であることについて、言ったり書き出したりしている。 ②武道には、各種目で用いられる技の名称や剣道特有の運動観察の方法である見取り稽古の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 ③武道では、攻防に必要な補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力ができることについて、学習した具体例を挙げている。 ④試合の行い方には、簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。	○基本動作 ①構えで、相手の動きの変化に応じた自然体で中段に構えることができる。 ②体さばきでは、相手の動きの変化に応じて体の移動を行うことができる。 ③基本打突の仕方と受け方では、体さばきや竹刀操作を用いて打ったり、応じ技へ発展するよう受けたりすることができる。 ○しかけ技 <二段の技>。 ④最初の面打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つことができる（面一面） <引き技> ⑤相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つことができる。（引き面） <出ばな技> ⑥相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき、隙ができた面を打つことができる。（出ばな面） <払い技> ⑦相手の竹刀を払ったとき、隙ができた面を打つことができる。（払い面） ○応じ技 <抜き技> ⑧相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つことができる。（小手抜き面）	①武道の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 ③仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。 ④一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ⑤健康・安全を確保している。

■ 中学校第1学年・第2学年剣道授業「学習指導計画」の例 *第2学年学習内容

伝統的な考え方や礼法を学ぶ段階		基本動作、着装、結束を学ぶ段階		基本動作、技を学ぶ段階		技を学び深める 技を学び、技を試す、判断、思考、表現する段階					
過程		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	導入	集合、挨拶 目標確認 ※安全確認	集合、挨拶 目標確認 ※安全確認	着装、集合挨拶 礼 (相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守る)、目標確認 ※安全確認 (健康・安全に気を配る)							
5		オリエンテーション	①基本動作 ・自然体 ・足さばき (体さばき) ・送り足 ・踏み込み足 ※剣道に必要な基本動作 ・発声、送り足 (前進後退左右)、踏み切り、踏み込み動作 (発声) 面、小手、胴、小手→面、引き胴など ・基本となる技 <くしかけ技>	②基本動作 ●基本打突	②面の着装 ●基本打突	②基本打突 正面、小手、胴	②連続技 小手→面	②引き技 髭ぜり合い 引き胴	②抜き技 面抜き胴	②既習技 かかり練習 グループ別	
10			<応じ技>								
15	展開	剣道の歴史 剣、鎧、刀	①準備運動 (体操、敏捷性などを高める体力づくり、体ほぐし、手刀の攻防で基本動作につながる動きづくり) ※剣道に必要な基本動作 ・発声、送り足 (前進後退左右)、踏み切り、踏み込み動作 (発声) 面、小手、胴、小手→面、引き胴など ・基本となる技 <くしかけ技>	相手の動きに応じた基本動作、課題に応じた運動の取り組み方の工夫							
20		剣道の特性 剣道用具		②基本動作 ●基本打突	②面の着装 ●基本打突	②基本打突 正面、小手、胴	②連続技 小手→面	②引き技 髭ぜり合い 引き胴	②抜き技 面抜き胴	②既習技 かかり練習 グループ別	
25		竹刀の名称 ※安全指導 DVD など		①打ち方 正面、左右面打ち、胴 (右)、 小手 (右) ・打たせ方 隙ができたとき (剣先が開く、 上がる、手元が上がる)	②有効打突 1 本 [気剣体の一致] をめざす ・既習技練習 ・打ち方、打たせ方、受け方 ・相手の隙を見つけた、隙をつくる ・かかり練習、約束練習	③基本となる技、基本打突の段階的練習	④判定試合 ア. 技の出来栄を競う ●判定基準 (5 人組判定・評価) イ. 応じ技の試合 ●判定基準 (気) 気迫のある声 (剣) 正しい打ち (体) 美しい姿勢と残心	⑤自由練習 ・打ったり受 けたりするな どの攻防を展 開する	⑥簡易な試合 ・ポイント制の試合 1 分間 試合 (30 秒～45 秒) 交代 (15 秒) ・5 人組 判定評価 (個人リーグ戦)		
30		②礼法 立礼、座礼		③竹刀打ち その場打ち 踏み切り動作 踏み込み動作 残心 ・リズム剣道 ・師匠と弟子	④判定試合 ア. 技の出来栄を競う ●判定基準 (5 人組判定・評価) イ. 応じ技の試合 ●判定基準 (気) 気迫のある声 (剣) 打突部で打突部位を捉える (体) 姿勢、体、足の出と残心	⑤自由練習で技を試す (打ったり、受けたりするなどの攻防を展開する)					
35	整理	立礼、座礼	③竹刀打ち その場打ち 踏み切り動作 踏み込み動作 残心 ・リズム剣道 ・師匠と弟子	④判定試合 ア. 技の出来栄を競う ●判定基準 (5 人組判定・評価) イ. 応じ技の試合 ●判定基準 (気) 気迫のある声 (剣) 打突部で打突部位を捉える (体) 姿勢、体、足の出と残心	⑤自由練習で技を試す (打ったり、受けたりするなどの攻防を展開する)						
40		③剣道体験 ・手拭い切り ・新聞切り ・新聞球打ち など	④判定試合 ア. 技の出来栄を競う ●判定基準 (5 人組判定・評価) イ. 応じ技の試合 ●判定基準 (気) 気迫のある声 (剣) 打突部で打突部位を捉える (体) 姿勢、体、足の出と残心	⑤自由練習で技を試す (打ったり、受けたりするなどの攻防を展開する)							
45		③剣道体験 ・手拭い切り ・新聞切り ・新聞球打ち など	④判定試合 ア. 技の出来栄を競う ●判定基準 (5 人組判定・評価) イ. 応じ技の試合 ●判定基準 (気) 気迫のある声 (剣) 打突部で打突部位を捉える (体) 姿勢、体、足の出と残心	⑤自由練習で技を試す (打ったり、受けたりするなどの攻防を展開する)							
50	整理	③剣道体験 ・手拭い切り ・新聞切り ・新聞球打ち など	④判定試合 ア. 技の出来栄を競う ●判定基準 (5 人組判定・評価) イ. 応じ技の試合 ●判定基準 (気) 気迫のある声 (剣) 打突部で打突部位を捉える (体) 姿勢、体、足の出と残心	⑤自由練習で技を試す (打ったり、受けたりするなどの攻防を展開する)							

具体的な指導内容と単元の評価規準									
※第2学年の例									
剣道で伝えたい精神性・態度育成									
知識・技能									
剣道は対人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることについて、理解したことを言ったり書き出したりしている。	剣道には技能の習得を通じて、人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて、理解したことを言ったり書き出したりしている。	相手の動きに応じた基本動作ができる。	相手の動きに応じた基本となる技ができる。	有効打突の条件を言ったり、書き出したりしている。				試合の行い方について、ごく簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方など、学習した具体例を挙げている。	相手の動きに応じて打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができ。
思考・判断・表現									
				有効打突のポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えていく。	学習した安全上(禁じ技など)の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。			体力や技能の程度、性別などの違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見つけて、仲間に伝えている。	一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度									
相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。	剣道の学習に積極的に取り組もうとしている。			場所、用具の安全に留意し、仲間と協力して安全に剣道用具を着けている。				禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。	
剣道の歴史									
・江戸時代から受け継がれた我が国の身体運動文化・対人運動(伝統的な考え方や行動の仕方)を学ぶ									
剣道の特性 対人性									
・剣道は相手と正対し、相手の目を見て技を競う、相手の目を見て礼を行う									
・礼(禮)は相手を尊重し、感謝し行う日常での礼の実践の大切さを学ぶ									
道具の安全と管理									
・剣道用具を安全に大切に取り扱い扱う。物を大切にすることは相手に対する思いやりの心を育む									
剣道で伝えたい精神性・態度育成									
共存と共生									
・基本技の練習で打ったり、打たせたりして、基本技の出来栄を確認し合う中で、互いによりよい技をめざし相手と互いに高め合うことの大切さを学ぶ									
側隠の情									
・剣道では勝敗が決まった後も、勝ち負けにとらわれずお互いが心身を正し礼法を行う、これは誰もが湧き上がる感情を抑え、負けた人の心を汲み取るという武道の伝統的な考え方があることを学ぶ									
平常心									
・試合を体験することで、精神的に不安を抱くなど、緊張や動揺する自分の気持ちを、自分で調整することを学ぶ									

剣道で伝えたい精神性・態度育成

配当時間 2/10

※本時の目標と評価については、事例を2つ示してあるところがありますが1つ選択しましょう。

■本時の目標

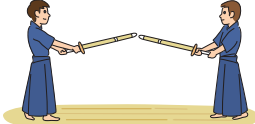
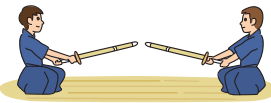
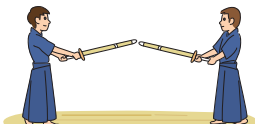
【知識・技能】◆竹刀の名称や剣道で高められる体力について理解している。

【主体的に学習に取り組む態度】◆場所や剣道用具の安全に配慮し、積極的に取り組むことができる。

時 配	学習内容と活動	学習 形態	○指導上の留意点 (T ₁)	☆指導のポイント、つまずきの解決法 (T ₂) ●評価 (評価方法) (T ₁)
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●敏捷性を高める運動	一斉	○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（ツーステップ、前後左右）などの動きを行い、準備体操を行わせる。 ○剣道で高める体力を理解し敏捷性を高める運動を行わせる。	○学んだ礼法を学校や家庭で実践できたか確認し礼の生活化を促す。 【知識・理解】 ●竹刀の名称や剣道で高める体力について理解し書き出している。（学習ノート）
	⑤主運動 ①基本動作 ●構え、送り足 ●足さばき（体さばき）、残心 ●目付け ●自然体 ●手刀で前後左右 ●手刀の基本動作ドリル ●送り足→踏み込み足→残心（正面、小手、胴） 正面は頭上から肩の高さ 小手は顔前からへその高さ 胴は頭上から斜め45度の角度 相手の右胴で止める ②対人で一連の基本動作 ●竹刀の握り方 ●中段の構え方 ●師匠と弟子 ③剣道具（防具）の着装と結束 垂と胴 ●剣道具の置き方 ●着装 ●外し方と結束 ●収納の仕方	一斉 ペア 一斉	○基本動作の重要性を理解させる。 ○背筋を伸ばし、両手を体側におろし、無理のない姿勢をとらせる。 ○自然体から手刀で臍前に構えさせる。 ①送り足「ヤーヤーヤー」の発声で3歩攻めて前進 ②手刀で送り足3歩 発声はメンメンメン ③3歩ヤーの発声で送り足 ④1歩メンの発声で 踏み込んで ⑤右足を軸に残心を示す ①～⑤を同様に「コテ」、「ドー」 ○元立ち（師匠）は歯切れの良い号令をかけ、かかり手（弟子）は号令に従い前後左右、面、小手、胴、残心までの一連の動作を相手と目を離さず、呼吸を合わせて行わせる。 ○剣道具（防具）は、自分の身を守るプロテクターであると同時に、大切な道具であることを理解させる。 ○丁寧に取扱い安全に配慮させる。	☆基本動作である、足さばき（体さばき）は相手に打突したり、かわしたり、相手の打突を防ぐための身のかましなど、打つ際の足の運び方のことであり、その基礎となるのが足のさばき方であることを理解させる。 ☆左足（後足）が遅かったり残ったりしないように素早く引きつけさせる。 ☆有効打突の理解 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打突する 体…足さばき（体さばき）、姿勢 残心…打突後の身構え気構え ☆剣道には結びの文化があることを理解させる。 ☆いったん着けた剣道具（防具）は簡単に取れないように着装させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ●場所や剣道用具の安全に留意し積極的に取り組もうとしている。（観察）
整理 10分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座、礼	一斉	○前進後退で面小手胴の素振りをゆっくり大きく各10本行わせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆竹刀の握り方を変えないように真っ直ぐに大きく振りかぶり、振り下ろすように行わせる。

■ 本時の目標

【知 識 ・ 技 能】◆相手の動きに応じた基本動作ができる。

時 配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点 ①	☆指導のポイント、つまづきの解決法 ② ●評価（評価方法）①
導入 10 分	※準備 ●竹刀、垂、胴を着装し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●手刀による攻防（敏捷性） ※竹刀の安全確認	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させる。	
		一 斉 グループ	相手と気を合わせて、基本となる技の打ち方と打たせ方を身につけよう ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴を行わせる。 ○手刀攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。 	☆後足が残らないように素早く引きつけさせる。 ☆正面、小手、胴の基本となる技のポイントを身につけさせる。 ☆手刀で正対しリーダーの出す技に対して敏捷に反応し、技を出し合い攻防を楽しませる。
展開 30 分	⑤主運動 ①構えと目付け（竹刀使用） ●中段の構えと目付け（2人組）  ●構え方と納め方（蹲踞）  ●素振り（空間打突） ●竹刀の握り方  ②打ち方と打たせ方 ●打突部位の確認 ●段階的な打突 その場打ち→前進後退で打つ→踏み込んで打つ→残心 ③約束練習 ●リズムに乗って打つ ●師匠（元立ち）と弟子（掛り手） 	一 斉 ペア	○相手と正対し目を合わせて礼を行ってから中段に構えさせる。 ○足の構え体重のかけ方に注意させる。  中段の構え（正面） （側面） ○素振りは、左手で振り上げ足の移動とともに振り下ろさせる。 ○空間打突（正面打ち、小手打ち、胴打ち）を理解させ行わせる。 ○正面、小手、胴の打突位置の確認し、打ち方と打たせ方を行わせる。  正面 小手 胴 ○リズムに乗って正面、小手、胴を6本ずつ打ち合わせる。  ○前進後退+打ち ○師匠と弟子の関係で、互いに基本動作を行い、基本となる技を打ったり、打たせたりする。	☆剣道では、相手と正対し目を合わせる、気を合わせるが基本的な考え方であることを理解させる。 ☆中段の構えが攻防に適している構えであることを理解させる。 ☆振りかぶりが小さく剣先が両拳の高さより下がらないようにさせる。 ☆ネリーブライなど曲に合わせて行わせ、後足の引きつけを意識させる。 ☆師匠（元立ち）の号令や動きに対して、足さばき（体さばき）などの基本動作を行い基本となる技を打たせる。
整理 10 分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座、礼	一 斉	○呼吸を整えながら、上下素振りを大きくゆっくりと体の中心を（正中線）を通して10本振らせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆竹刀の握り方を変えないように真っ直ぐに大きく振りかぶり、振り下ろすように行わせる。

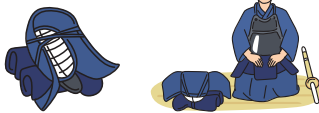
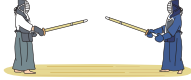
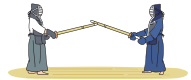
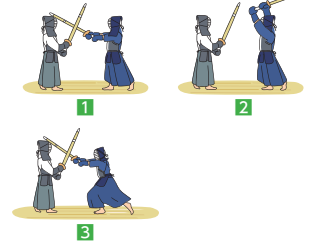
【知識・技能】

●相手の動きに応じた基本動作をすることができる。
（観察）

配当時間 4/10

■本時の目標

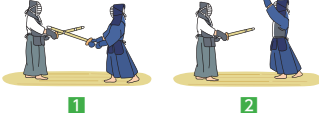
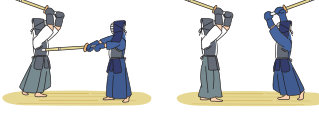
【知識・技能】◆相手の動きに応じた基本打突を身につけるポイントを理解している。

時記	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点 (T ₁)	☆指導のポイント、つまづきの解決法 (T ₂) ●評価 (評価方法) (T ₁)
導入 10 分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●敏捷性を高める運動 ※竹刀の安全確認	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。 面の際ができたところを見つけ正面を打ってみよう ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動 (送り足→踏み込み足→残心) の基本ドリル正面、小手、胴を行わせる。 ○手刀攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	☆横に並べた小手の上に面をのせ、自分の右斜め前に置かせる。 ☆面は、かぶって物見を合わせる、後ろで結んだら4本の紐を揃える、耳抜きをするなどのポイントを理解させる。 ☆小手は、左小手から着け、次に右小手を着ける (外すときは右→左) 順序が文化としてあることを理解させる。
展開 30 分	⑤主運動 ●置き方  ①面と小手を着装する ●間合 ・遠間  ・一足一刀の間  ②打たせ方 ●正面、小手、胴の打たせ方  正面 小手 胴 ③正面の段階的な打ち方  1 2 3	一 斉 ペア ペア	○手拭の着け方と面と小手の着装について説明する。 ○2人組で協力し合い着装させる。 ○間合 (相手と自分の距離) 遠間、一足一刀の間合について説明する。 ○攻めることにより隙ができることを理解させる。 遠間 → 一歩進んで攻める → 一足一刀の間 → 打突 → 残心 ○打たせ方について説明する。 (隙ができる、隙を与える) ・剣先が右に開く→正面 攻め→ 剣先が上がる→右小手 ・手元が上がる→右胴 ○基本となる技を段階的な打ち方を理解し行わせる。 ○打ちと掛け声が一致するように行わせる。 ①打突部で打突部位を3回打つ ②一足一刀から送り足で3回打つ ③一足一刀の間合に攻め入って踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ ○左足の引きつけに注意して行わせる	☆「攻め」とは、遠い間合いから一歩前へ出て一足一刀の間合に入るなど、積極的に仕掛けることで相手がこちらの攻めに対し何らかの反応や変化を示したときに、初めて攻めとなることを理解させる。 ☆基本となる技を身につけるためには、打つ方も大切だが、むしろ打たせる側の打たせ方の間合、隙の与え方のタイミング、体のさばきなどで有効打突になることを理解させる。 【知識・技能】 ●相手の動きに応じた基本打突を身につけるポイントについて、具体例を挙げている。(学習ノート)
整理 10 分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ●剣道具 (防具) の結束 ⑨正座、礼	一 斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆互いにより良い技を目指し互いに高めあうことの大切さに気づかせる。

■本時の目標

【知識・技能】◆相手の動きに応じた基本打突正面、小手、胸を打ったり受けたりすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】◆場所や剣道用具の安全に留意し、仲間と協力して安全に剣道具を着けることができる。

時 配	学習内容と活動	学習 形態	○指導上の留意点 ①	☆指導のポイント、つまずきの解決法 ●評価（評価方法）②
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。	
	①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●敏捷性を高める運動		正面、小手、胸の隙ができたところを見つけ打ってみよう ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胸を行わせる。 ○手刀攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	☆後足を素早く引きつけさせる。 ☆正面、小手、胸の基本となる技のポイントを意識させる。 ☆手刀で正対しリーダーの出す技に対して敏速に反応し、技を出し合い攻防を楽しませる。
展開 30分	⑤主運動 ※面と小手を着装する ※竹刀の安全確認 ①打たせ方 ●間合（一足一刀） ●正面、小手、胸の打たせ方  正面 小手 胸 ②小手の段階的な打ち方  1 2  3 ●胸の段階的な打ち方  1 2  3 ③約束練習 遠間→一歩進んで攻める→ 一足一刀の間→打突→残心	一 斉 ペア	○剣道具の着装は短時間で正確にできるよう仲間と協力して行わせる。 ○打ちと掛け声が一致するように行わせる。 ○間合と攻めについて確認させる。 遠間→一歩進んで攻める→一足一刀の間→打突→残心 ○打たせ方について説明する。（隙ができる・隙を与える） 面を打て → 剣先が右に開く → 正面 攻め → 剣先が上がる → 右小手 胸を打て → 手元が上がる → 右胸 ○基本となる技を段階的な打ち方を理解し行わせる。 ①その場で打突部位を3回打つ ②一足一刀の間合から3回打つ ③一足一刀の間合いに攻め入り踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ  ←胸は足さばき（体さばき）を行わせて、小手と同様に行わせる。 ※体をさばいて抜けさせ残心をさせる。 ○正面、小手、胸を「〇〇を打て」の号令で元立ちが隙を与え打たせる。	【主体的に学習に取り組む態度】 ●場所や剣道用具の安全に留意し、仲間と協力して安全に剣道具を着けることができる。（観察） ☆横に並べた小手の上に面をのせ、自分の右斜め前に置かせる。 ☆面はかぶって物見を合わせる、後ろで結んだら4本の紐を揃える、耳への圧迫を取るなどのポイントを理解させる。 ☆小手は、左小手から着け、次に右小手を着ける（外すときは右→左）順序が文化としてあることを理解させる。 ☆基本となる技を身につけるためには、打つ方も大切だが、むしろ打たせる側の打たせ方の間合、隙の与え方のタイミング、体のさばきなどで有効打突になることを理解させる。 【知識・技能】 ●相手の動きに応じた基本打突正面・小手・胸を打ったり受けたりすることができる。（観察） ☆約束練習で、打たせる側は、相手の攻めに対して、打突部位を開けるようにさせ、一打一打を確実に行わせる。
整理 10分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ●剣道具の結束 ⑨正座、礼	一 斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆打つ、打たせることで気づいたことを発表させ、学習の安全への配慮などに気づかせる。

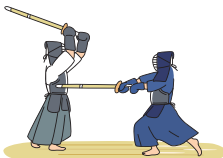
配当時間 6/10

※本時の目標と評価については、事例を2つ示してあるところがありますが1つ選択しましょう。

■本時の目標

【知識・技能】◆有効打突の条件を理解することができる。

【思考・判断・表現】◆有効打突のポイントを見つけ、仲間に出来栄や課題を伝えることができる。

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点 ①	☆指導のポイント、つまずきの解決法 ●評価（評価方法）①
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●敏捷性を高める運動	一斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。 基本となる技を有効打突（一本）に決めよう ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴を行わせる。 ○手刀攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	☆後足を素早く引きつけさせる。 ☆正面、小手、胴の基本となる技のポイントを意識させる。 ☆手刀で正対しリーダーの出す技に対して敏速に反応して技を出し合い攻防を楽しませる。
展開 30分	※面と小手を着装する ※竹刀の安全確認 ⑤主運動 ①既習練習 ●基本となる技の段階的練習（正面、小手、胴） ●約束練習  ②技の出来栄を競う判定試合（絶対評価） ※5人組でローテーション   ③自由練習 ※30秒×3回 	一斉 ペア 5人組 ペア	○竹刀や剣道具の安全を確認する。 ○正面、小手、胴の段階的な打ち方を確認し行わせる。 ①その場で打突部位を3回打つ ②一足一刀の間合から3回打つ ③一足一刀の間合いに攻めて入り踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ ○正面、小手、胴を「○○を打て」の号令で隙を与え打たせる。 ○有効打突をめざして行わせる。 ○判定基準を明確にさせる。 (1) 大きな声 (2) 打突部で打突部位を捉える (3) 足さばき（体さばき）、姿勢と残心 ○主審に大きな声で号令をかけさせる。 ・礼→はじめ→判定→礼→評価（説明） ○自由練習で学習した正面、小手、胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し行わせる。	☆打たせ方について確認する。 （隙ができる、隙を与える） 正面…剣先が開く。（右方向へ） 小手…剣が上がる。（右小手を打たせる） 胴…手元が上がる。（右胴を打たせる） ※体をさばいて抜けさせ残心をさせる。 ☆有効打突の条件 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打つ 体…足さばき（体さばき）、姿勢 残心…打突後の身構え、気構え 【思考・判断・表現】 ●有効打突のポイントやつまずきの事例を参考に、仲間に課題や出来栄を伝えることができる。（学習カード）
整理 10分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座、礼	一斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	【知識・理解】 ●有効打突の条件を言ったり書いたりしている。（学習ノート） ☆互いに良いところを認め合い、相手に伝えられたか確認させる。

■本時の目標

【思考・判断・表現】◆学習した安全上の留意点を学習場面であてはめ仲間に伝えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】◆記録や審判など分担した役割を果たすことができる。

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点 (T ₁)	☆指導のポイント、つまづきの解決法 (T ₂) ●評価 (評価方法) (T ₁)
導入10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●敏捷性を高める運動	一斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。	☆後足を素早く引きつけさせる。 ☆正面、小手、胴、小手→面のポイントを意識させる。
展開30分	※面と小手を着装する ※竹刀の安全確認 ⑤主運動 ①既習練習 (各技を2本づつ) ●正面、小手、胴の打ち込み練習 ②連続技 (小手→面) ●打ち方と打たせ方  小手  面 ②技のできばえを競う判定試合 ※5人組でローテーション ●礼→はじめ→判定→礼→評価  ③自由練習 ※30秒×3回 	ペア 5人組 ペア	○竹刀や剣道具などの安全を確認する。 ○正面、小手、胴の6本打ちを行わせる。 ○連続技は最初の打突が失敗したときに、隙が生じた部位を即座に打つ技を連続技といい、この他に小手→胴などの技があることを理解させる。 ○二段打ちの踏み込み足、踏み切り足の引きつけについて重点的に説明する。 ○打たせ方について確認させる。 小手…剣が上がる (右小手を打たせる) 面…剣先を開く (右方向へ) ○小手→面の段階的練習を行わせる。 1 その場で打突部位を3回打つ 2 一足一刀の間合から3回打つ 3 一足一刀の間合に攻めて入り踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ ○判定基準を明確にさせる。 (1) 大きな声 (2) 打突部で打突部位を捉える (3) 足さばき (体さばき)、姿勢と残心 ○自由練習で学習した正面、小手、胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し行わせる。	☆攻めて相手の右小手を打ち、相手が竹刀を開いたり、手元をさげて防いだりしたところをすかさず面を打つようにさせる。 ☆特に小手を打った後の、後足の引きつけを素早く行うことで面の踏込が上手くできることを理解させる。 ☆打たせる側は小手を打たせた後に1歩退いて面の打ち間をつくり右に体をさばき抜けさせる。 ☆有効打突の条件 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打つ 体…足さばき (体さばき)、姿勢 残心…打突後の身構え、気構え 【主体的に学習に取り組む態度】 ●記録や審判などの分担した役割を果たそうとしている。 (観察、学習ノート) 【思考・判断・表現】 ●学習した安全上の留意点を学習場面であてはめ仲間に伝えることができる。 (観察、学習ノート)
整理10分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座、礼	一斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆互いに良いところを認め合い、相手に伝えられたか確認させる。 ☆自分の好きな技は何か、また、自由練習をしてみても技を出せたか、真の勇気について気づかせる。

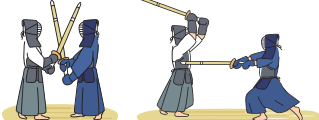
配当時間 8/10

※本時の目標と評価については、事例を2つ示してあるところがありますが1つ選択しましょう。

■本時の目標

【知識・技能】◆自由練習で、既習の技を積極的に打つことができる。

【主体的に学習に取り組む態度】◆禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。

時記	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点 ①	☆指導のポイント、つまずきの解決法 ●評価 (評価方法) ①
導入10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●敏捷性を高める運動	一斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。 鍔ぜり合いで生じた際に対して引き技を決めよう ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動 (送り足→踏み込み足→残心) の基本ドリル 正面、小手、胴、小手→面、引き胴を行わせる。 ○手刀攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	☆後足を素早く引きつけさせる。 ☆正面、小手、胴、小手→面、引き胴のポイントを意識させる。
展開30分	※面と小手を着装する ※竹刀の安全確認 ⑤主運動 ①既習練習 (各技を2本づつ) ●正面、小手、胴、小手→面の打ち込み練習 ②しかけ技 (引き胴) ●鍔ぜり合い→引き胴  ●面→鍔ぜり合い→引き胴   ③自由練習 ※30秒×3回 	ペア ○竹刀や剣道具などの安全を確認する。 ○正面、小手、胴の8本打ちを行わせる。 ○相手と握手の距離に接近し、鍔と鍔とがせり合う状態を理解させる。 ○打たせる側は手元を下げ、下腹部に力を入れ受けさせる。 ○引き胴の段階的練習を行わせる。 1 打突部位を3回打つ 2 鍔ぜり合いから引きながら打つ→残心3回 ○送り足、または開き足で、後方または斜め後方に引きながら胴を打たせる。 ○打った後の姿勢が崩れやすいので正しい姿勢で身体と剣先を相手に向けて残心を示させる。 ○習熟するにつれ、一連の動作として大きく早く強く打つようにさせる。 ペア ○自由練習で学習した正面、小手、胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し行わせる。	☆引き技は、鍔ぜり合い、または攻めによって相手の構えが崩れ、隙が生じたところをすかさず退きながら打つ技で引き面や引き胴などの技があることを理解させる。 ☆男女差、体格差、体力差などを配慮し、暴力的な鍔ぜり合いにならないよう配慮させる。 ☆引き技は、打突を行う際の間合いや足さばき (体さばき) のタイミングを工夫させる。 ☆退きながらの打ちは、前へ出での打ちより打ちが弱いので手の内をきかせて大きい動作で打たせる。 ☆自由練習では、恐怖心を打ち破る真の勇気をもって攻める気持ちで行わせる。 【知識・技能】 ●自由練習で、既習の技を積極的に打ったり、受けたりすることができる (観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ●禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 (学習カード)	
整理10分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座、礼	一斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆自由練習で技を出せたか、間合について気づいたことを発表させる。

配当時間 10/10

※本時の目標と評価については、事例を2つ示してあるところがありますが1つ選択しましょう。

■本時の目標

【知識・技能】◆相手の動きに応じて打ったり、受けたりするなど簡易な攻防をすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】◆一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることができる。

時 配	学習内容と活動	学習 形態	○指導上の留意点 ①	☆指導のポイント、つまづきの解決法 ●評価（評価方法）①
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合、正座、礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動、補助運動 ●敏捷性を高める運動	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。	
	積極的 ^① に技を出して、有効打突（一本）に決めよう	グループ	○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴、小手→面、引き胴を行わせる。 ○手刀攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	
展開 30分	※面と小手を着装する ※竹刀の安全確認 ⑤主運動 ①グループ別約束練習 ●正面、小手、胴、小手→面各2本 ●面、鍔ぜり合い引き胴3本 ●面抜き胴3本 ②自由練習 ※30秒×3回 	グループ	○竹刀や剣道具などの安全を確認する。 ○正面、小手、胴の8本打ちを行わせる。 ○面、鍔ぜり合い引き胴3本連続打ちを行わせる。 ○面抜き胴を相互に3本行わせる。 ○自由練習で、今まで学習した正面、小手、胴、小手→面、引き面、面抜き胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し行わせる。 ○判定基準を明確にさせる。 (1) 気迫のある大きな声 (2) 打突部で打突部位を捉える (3) 美しい姿勢と残心まで ※有効打突がない場合は積極的に攻めて技を出し、有効打突に近い技が多い方に判定させる。（説明）	☆既習の練習や攻防を楽しむ場合、互いの間合や技を打つ機会、タイミングなどを大切に取り組ませる。 ☆約束練習は、打たせる側は、相手の攻めに対して、打突部位を開けるようにさせ、一打一打を確実に行わせる。また、良い点や改善すべき点を指摘し合いながら行わせる。
	③ポイント制の試合 ※5人組でリーグ戦 ●礼→はじめ→判定→礼→評価 	5人組	○判定基準を明確にさせる。 時間：1分間 試合：30秒～45秒 交代：15秒 方法：時間内勝負 役割：主審（判定）副審2人（本数）	☆有効打突の条件 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打つ 体…美しい姿勢（足さばき（体さばき）、姿勢）と残心（打突後の身構え、気構え）まで
整理 10分	⑥整理運動 ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座、礼 一 斉	一 斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	【知識・技能】 ●相手の動きに応じて打ったり、受けたりするなど簡易な攻防をすることができる。（観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ●一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めるようとしている。（観察、学習カード）
				☆試合などで誰もが湧き上がる感情を抑え、負けた人の心をくみ取る側隠の情の考え方について理解させる。 ☆試合で技を出せたか、どのようなときにうまく打てたか気づいたことを発表させる。

～剣道具のある場合～

[illegible]

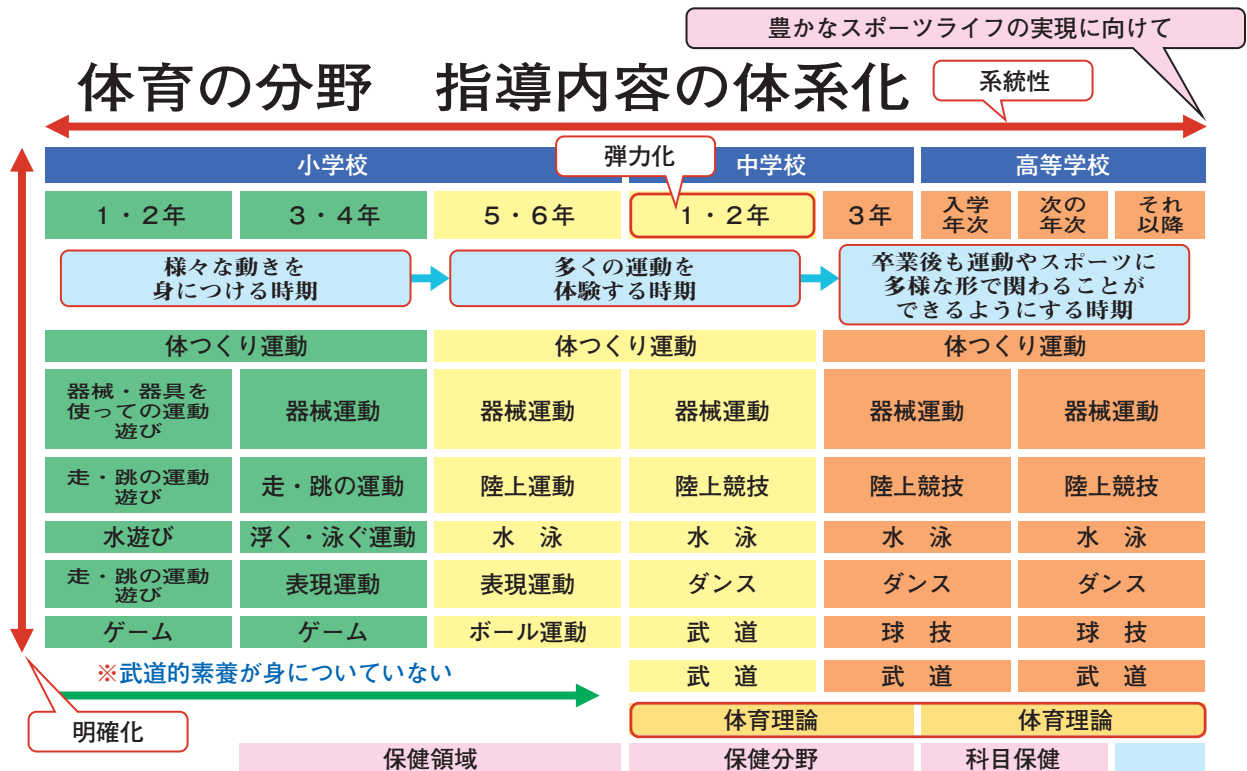
剣道授業「学習指導計画」の例 ～剣道具のない場合～

※木刀を活用した例

過程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	導入	集合、挨拶 目標確認 ※安全確認	集合、挨拶 目標確認 ※安全確認	着装、集合挨拶 礼 (相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守る)、目標確認 ※安全確認 (健康・安全に気を配る)						
5				2準備運動 (体操、敏捷性などを高める体力づくり、体ほぐし、手刀の攻防で動きづくり) ※剣道に必要な基本動作						
10		1オリエン テーション 剣道の歴史、 特性 (DVD)	(送り足 (発声)、前進後退左右 → 踏み切り、踏み込み動作 (発声) 正面、小手、胴、小手→面、引き胴)							
15		1着装 剣道着、袴の 着装	基本となる技 くしかけ技>							
20		2基本動作 木刀の持ち方 ・自然体 ・構え方 ・足さばき (体さばき) ・送り足	2基本1 正面、小手 ※安全確認	2基本1 一本打ちの技 正面、小手、胴 ・打たせ方、打つ動作 の確認 気 大きな声 剣 木刀、部位、刃筋 体 体・足さばき、姿勢 の一致	2基本2 連続技 二、三段の技 小手→面	2基本3 基本4 払い技 払い面 引き技 引き胴 鍔ざり合い	2基本5 抜き技 面抜き胴	2基本1～基本5の練習 全体練習 2人組 グループ 練習		
25		2剣道体験 新聞切り 新聞球打ち	打ち方と打たせ方 隙ができたとき (剣先 が開く、上がる、手元 が上がる)		隙ができたとき、打ち方、受け方、打たせ方					
30		木刀や竹刀の安全な取り 扱い	3正面 小手 ・間合 横手 一足一刀 動作 送り足 残心	3リズム 面、小手、 胴 ・間合 横手 一足一刀 動作 送り足 残心	3判定試合 (技の出来栄を競う) ※技の定着 正面、小手、胴 小手→面 払い面 引き胴 抜き胴 ●判定基準 ※絶対評価 気：気迫のある発声 剣：打突部で打突部位を捉える 体：体・足さばき、姿勢と残心 気 × 剣 ● 体 ○					
35		3礼法 立礼 座礼	相手手を尊重し 伝統的な行動 の仕方を守る		●判定基準は同じ 見学者△△△△△△△ (見取り稽古)					
40					3演武会 (発表会) 評価 相互評価					
45					3演武会 (発表会) 評価 相互評価					
50			本時のまとめ、評価 (教師の評価、生徒の自己評価など)、健康安全の確認、礼、片づけ (剣道用具の安全・管理)							
剣道で 伝えたい 精神性		・剣道の歴史と特性 ・礼 (禮) ・安全	・残心、隙 (目付け) ・間合 (近い間合、遠い 間合、一足一刀の間合)	・勇気 (克己) ・努力 (守破離)	・共存と共生 打つ、打たせ、高め合う ・判断力 (正義感)	・側隠の情 (思いやり) ・平常心 ・感謝				

リズム剣道による剣道授業（竹刀だけ用いての授業）

過程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	集合、挨拶 目標確認 安全確認	集合、挨拶 目標確認 安全確認 準備運動	集合、挨拶、礼（相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守る）、目標 ※安全確認（健康・安全に気を配る） 準備運動（敏捷性などを高める体力づくり、体ほぐし、動きづくり）							
5										
10	①オリエンテーション 剣道の歴史と特性	①リズム剣道 足さばき（体さばき）☆ 4前4後	①リズム剣道 送り足 四方移動（2人対面） リーダーに合わせる	①リズム剣道の正面打ち ☆ ・受け手の竹刀を打った所から二歩退き構え、一歩前進、さらに前進正面を打つ ・一歩後退し残心を示し、更に一歩退き元に返る。 繰り返す。	①リズム剣道 前時に同じ ☆ 気剣体の一致を目指す ○正面打ち	①リズム剣道 ☆ 前時に同じ ○小手、正面、胴打ちの回数を決めてグループで練習する。	②リズム剣道 ☆ 前時に同じ ②スキップで踏み込み動作 ③踏み込み動作による正面打ち 2人組みで、1人が竹刀を顔の横水平に掲げる一方が中段の構えから一歩前進次に踏み込み足で竹刀を打って通り抜ける	①リズム剣道 ★ 早素振り 右上段の構えから前へ出て面打ち竹刀を振りかぶりながら一歩退る。これを繰り返す。	①打木刀による剣道基本技稽古法を用いた展開	
15		送り足 四方八方（工夫させる）							基本1～ 基本5	
20	竹刀の名称 取り扱いと注意		②連続正面打ち 対面で ★ その後連続前進に移動回数を決めて、交代							
25		②基本打突 正面の打ち方 打たせ方			気（声） 剣（竹刀） 体（足さばき・体さばき） 一致した打ち			②踏み込み動作による正面打ち 前時の復習	打ち方と受け方、打たせ方	
30	②新聞切り 新聞球打ち			○小手打ちも同様に ○胴打ちも同様に 行う	②判定試合 ○判定基準 ・気迫のある発声 ・刃筋正しく打突部で打突部位 ・体の出と残心				②グループ練習	
35	③基本動作 構え方 納め方	小手の打ち方 打たせ方								
40	④素振り その場 前後移動	③連続正面打ち 対面で 前進後退	③礼法 座礼 立礼 三つの礼						③発表会	③「最終日」 ○演武会 ○評価 ○講評
45									○評価	
50	整理	○竹刀体操（ラジオ体操第2のレコード） 本時のまとめ、評価、健康・安全の確認、礼 ◎竹刀体操は体育祭演技に仕上げる。 【音楽】 ☆ネリーブライ（フォーダンス）								
剣道で伝えたい精神性	剣道の歴史 伝統文化	合気と間合 思いやり	相手に感謝 礼の実践	思いやり 相手や仲間	勇気 試合前後の礼	努力 自得する	共存と共生 打つ、打たせる	信頼、感謝	平常心	側隠の情



2. 小学校における剣道授業

(1) 体育分野 指導内容の体系化

運動領域においては、発達の段階のまとまりを考慮するとともに、基礎的な身体能力を身につけ、運動を豊かに実践していくための基礎を培う観点から、発達段階に応じた指導内容の明確化・体系化・弾力化が図られた。

各学年において「何を教える必要があるのか」身につけさせたい内容を整理し、学習を進めることが示されている。しかしながら、指導内容の体系化を考えると、「武道のみが小学校期において運動領域に取り入れられていない」ことが問題であり、中学校で安全で効果的な学習を行うためにも大きな課題である。

学習指導要領において小学校の体育の年間授業数は90時間である。武道（剣道）の教育的価値や安全性を考慮し、まずは「体づくり運動」などに武道運動（武道遊び）として、第5学年・第6学年から取り入れることが望まれる。

武道を小学校に導入して中学校第1・2学年に系統性を持たせるための試案を以下に示す。

(2) 小学校第5学年・第6学年の剣道授業の指導計画について

①単元の目標（学習指導要領の体づくり運動の3観点で示した）

【知識及び運動】

ア. 剣道の楽しさや喜びを味わい、体を動かす心地よさや体の動きを高めたりする。

イ. 新聞竹刀や軽微な竹刀を用いて剣道の基本動作を理解させる。

【思考力、判断力、表現力等】

ア. 自己の体の状態や体力に応じた剣道の行い方を工夫する。

イ. 自己や仲間の考えたことを他者に伝える。

【学びに向かう力、人間性等】

ア. 剣道に積極的に取り組む。

イ. 約束を守り助け合って剣道をしたり、仲間の考えや取組を認める。

ウ. 場や用具の安全に気を配ったりする。

エ. 丁寧な心で相手の目をみて挨拶する。

1) 運動領域 体育科の領域構成は、次の表のとおりである。

学年	1・2	3・4	5・6
領域	体 つ く り 運 動 (武道運動〔武道遊び〕)		
	器械・器具を使つての運動遊び	器 械 運 動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水 遊 び	浮く・泳ぐ運動	水 泳
	ゲ ー ム		ボール運動
	表現リズム遊び	表 現 運 動	
		保 健	

②剣道の授業評価について

- ア. 学習指導の3観点：【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】に関する授業評価を行う。
- イ. 剣道授業の前後における意識の変容を調査する。
- ウ. 学習ノートへの記述内容を分析する。

能の基礎を学ぶ

・竹刀（新聞竹刀など）を用いて「相手と気を合わせた基本の技」^{※1}や「創作による基本の技」^{※2}を習得する

※1「相手と気を合わせた基本の技」⇒シンクロした基本の技（互いに動作のタイミングを合わせて行う基本の技）

※2「創作による基本の技」⇒オリジナルの基本の技（習った技を組み合わせて行う基本の技）

③剣道の学習指導における特性

ア. 効果的特性

竹刀（新聞竹刀）を用いて相手と向き合い、自他を尊ぶ心を養う

a. 礼（禮）の実践力

相手を重んじる礼、他者への感謝の気持ち

b. おもいやり力

相手の痛みを感じる心、打って反省打たれて感謝の姿勢

c. 集中力

相手をしっかり見ること、瞬時の攻防動作

d. がまん力

相手から逃げない気持ち、自分に打ち克つ心

e. めりはり力

凜とした態度、潔い態度、油断しない心

イ. 構造的特性

竹刀（新聞竹刀など）・剣道具を用いた対人的運動文化を習得する

ウ. 機能的特性

・竹刀（新聞竹刀など）を用いて相手と向き合い、面・小手・胴の有効打突を取り合う攻防技

（3）小学校第5学年・第6学年の剣道授業8時間分指導案例

①指導案作成の重点事項

ア. 今回提案する剣道授業の指導案は、剣道を初めて行う児童を前提として、竹刀を用いた相手との攻防に抵抗なく触れるよう竹刀を工夫した。まず、第5学年では紙で作った新聞竹刀を教具として用いて、ペアと創る息を合わせた剣道基本を演武する剣道授業を行う。

この新聞竹刀は、新聞紙（約3日分）を丸めて本物に似させた鏑をつけ竹刀に見立てたものであり、通常の竹刀よりも軽く当たっても痛くない。これにより「怖い」、「当たったら痛そう」という剣道のもつマイナスイメージを軽減させることができる。

第6学年では、体格や体力に応じた簡易な竹刀を用いて打った感覚を感じ取れるようにする。さらに面、小手、胴の基本技や面抜き胴などの応用技をペアやグループでオリジナル剣道形として行う発表会を目標とした剣道授業を目

指す。

- イ. 武道特有の張り詰めた緊張状態の雰囲気では、息苦しくなり、教育効果も半減する。
張る空気と弛む^{ゆる}空気を併せもつメリハリのある授業の雰囲気づくりが重要となる。心通わせる雰囲気づくりとして、互いに心と身体を向き合わせることをねらいとした動機づけとして剣道の要素を活かした体ほぐしの運動を毎時間取り入れる。
- ウ. 礼法（立礼・座礼）については、日常生活と結びつく形で授業の中で習慣化させる。
- エ. 打った後も油断しない身構え心構えとしての「残心」を意識させるために打った後に声を出して「ざんしん！」と発声させる。
- オ. 対人性を重視した授業を行い、グループ学習を取り入れる。

②小学生の剣道授業の果たす役割とその可能性

武道をめぐる情勢と現代の少年少女の教育的課題を踏まえて、小学生による剣道授業の果たす役割とその可能性について考えたい。学習指導要領をもとに考えると、次の3つの観点が挙げられよう。

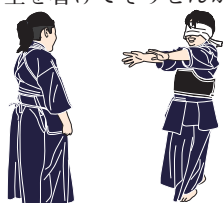
- ア. 生きる力をより具体化し、生きる力という理念を共有し育むことができる。平成29(2017)年改訂の学習指導要領では、「何のために学ぶのか」という学ぶ意義を共有することが強調された。この生きる力とは、社会において自立的に生きるために必要とされる力であり、人間力ともいえるものだと考える。さらに言えば、人間力とは、「自他を尊ぶ力」とも言い換えられ、対力（対応力：コミュニケーション力）、耐力（自制心：セルフコントロール力）、および体力（心身のバランス：心身の恒常性）の3つの力を併せ持ったものと考えられる。これらの力の総称である生きる力の基礎を武道（剣道）の特性によって小学校段階で育む可能性があるものと思われる。
- イ. 対人性を重視した実生活に活用できる学習内容である。教師による一斉指導から対人を重視したグループ学習の積極的活用が可能となる。
- ウ. グローバル化に通じる日本の伝統文化を習得できる。剣道による礼法や行動様式など文化的特性の指導を重視した学習内容である。

3) 学習指導計画例（剣道授業 8 時間扱い）

① 小学校第 5 学年の学習指導案例（実践例として提示する）

	目標と学習内容	評価（体づくり運動を参考）
1 ／ 8 時間目	目標 楽しい剣道ゲームを体験して、楽しさや喜びを味わおう 内容 剣道の体ほぐし ①剣道じゃんけん ②送り足じゃんけんリレー ③剣道の礼法（立礼・座礼）	剣道に積極的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
2 ／ 8 時間目	目標 新聞刀を作り、剣道の基本動作を学ぼう 内容 ※ 2 時間目以降新聞刀を使用 ①剣道の歴史（刀の紹介） (礼法：座礼) ②剣道の体ほぐし (新聞刀の風船打ち) ③リズムに合わせて面打ちをやってみよう 	用具の使い方や周囲の安全に気を配ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
3 ／ 8 時間目	目標 大きな声を出して胴打ちをやってみよう 内容 ※ 3 時間目以降に垂と胴を着ける ①体ほぐし（ぞうきんがけ競争） ②対人的ゲーム（掛け声団体戦） ③垂と胴を着けて新聞刀で胴打ちをして残心までかっこ良く行う 	約束を守り、仲間と助け合って大きな声を出し、引き胴打ちを行おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
4 ／ 8 時間目	目標 小手・面・胴をやってみよう 内容 ①体ほぐし（ぞうきんがけ競争） ②対人的ゲーム（剣道足ジャンケン） ③新聞刀で小手・面・胴を打ったり、受けたりする	小手・面・胴打ちの行い方を理解している。 【知識・理解】
5 ／ 8 時間目	目標 面抜き胴を段階的にやってみよう 内容 ①体ほぐし（新聞刀による真剣白刃取り） ②対人的ゲーム (向かい合って目を見ながら前進後退をすり足で行う) ③面抜き胴（段階的に）をやってみよう	面抜き胴の行い方を理解している。 【知識・理解】
6 ／ 8 時間目	目標 相手と気を合わせて基本の技（面抜き胴）を完成させよう 内容 ①剣道の体ほぐし（ぞうきんがけ競争） ②対人的ゲーム（互い違いに行う跳躍素振り） ③これまで学んできた「面抜き胴」を、礼法を入れて互いに気を合わせて基本の技を完成させよう ④ミニ発表会	仲間の考えや取組を認めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
7 ／ 8 時間目	目標 「面抜き胴」を、相手と気を合わせて基本の技としてグループで完成させよう 内容 ①剣道の体ほぐし (剣道の構えで回転ジャンプ・鬼ごっこ、ぞうきんがけ競争) ②仲間と気を合わせて「面抜き胴」をグループで発表できる	仲間と気を合わせて基本の技をグループで創りあげる。 【思考・判断・表現】
8 ／ 8 時間目	目標 仲間と気を合わせて基本の技をグループで発表し、互いに評価しよう 内容 ①剣道の体ほぐし（2 人組で協力ジャンプ・ぞうきんがけ競争） ②グループごとに発表会 ③みんなで審査会（相互評価）	楽しいと感じたことを他者に伝えている。 【思考・判断・表現】

②小学校第6学年の学習指導案例（実践例として提示する）

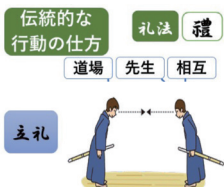
	目標と学習内容	評価（体づくり運動を参考）
1 ／ 8 時間 目	目標 楽しい剣道ゲームを体験して、楽しさや喜びを味わおう 内容 ①剣道の体ほぐし（剣道じゃんけんなど） ②対人的剣道ゲーム（剣道の構えを手で行い、反応を楽しむ） ③剣道の礼法（立礼・座礼）相手と向き合って礼ができる	剣道に積極的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
2 ／ 8 時間 目	目標 面抜き胴をやってみよう 内容 ①剣道の歴史（刀の紹介） ②剣道の体ほぐし（新聞刀による風船打ち） ③対人的剣道ゲーム（新聞刀による真剣白刃取り） ④面抜き胴（段階的に）	面抜き胴の打ち方を理解している。 【知識・技能】
3 ／ 8 時間 目	目標 胴と垂を着けて、簡易竹刀で「面抜き胴」を打ってみよう 内容 ※3時間目以降に胴と垂を着ける ①剣道具の着装法 ②剣道の体ほぐし（ぞうきんがけ競争・新聞刀の足さばき（体さばき）） ③対人的剣道ゲーム（新聞刀対簡易竹刀で互いに構えて前後すり足移動動作・片方が目をつぶって行う） ④新聞刀対簡易竹刀での面抜き胴 	剣道具の使い方や周囲の安全に気を配ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
4 ／ 8 時間 目	目標 簡易竹刀で面抜き胴を打ってみよう 内容 ①剣道の体ほぐし（胴と垂を着けてぞうきんがけ競争） ②対人的ゲーム（向かい合って竹刀の正面素振りを相手が左右の足さばき（体さばき）でかわす） ③面抜き胴のグループによるミニ発表会（残心まで意識させる）	面抜き胴のポイントを意識し、ペアでタイミングを合わせ行う工夫をしている。 【思考・判断・表現】
5 ／ 8 時間 目	目標 相手の打ちを防ぐと同時に打ってみよう 内容 ①剣道の体ほぐし（その場回転ジャンプ、胴と垂を着けてぞうきんがけ競争） ②対人的ゲーム（向かい合って目を見ながら前進後退をすり足で行う。大声を出し、目隠ししているパートナーを発見する） ③互いに接近した状態から胴に対して、ペアは胴を受けて面および引き面 	相手の胴打ちをタイミングよく受けたり打ったりしている。 【知識・技能】
6 ／ 8 時間 目	目標 ペアで創作剣道基本技を創ろう 内容 ①剣道の体ほぐし（その場回転ジャンプ360度、胴と垂を着けてぞうきんがけ競争） ②対人的跳躍素振り ③新聞刀同士、新聞刀対簡易竹刀による創作剣道基本技ミニ発表会	やりやすい技の組み合わせ方を考えペアに伝えている。【思考・判断・表現】
7 ／ 8 時間 目	目標 ペアで創作した剣道基本技をグループで組み合わせ完成しよう 内容 ①剣道の体ほぐし（胴と垂を着けてぞうきんがけ競争、手と足の協調） ②気を合わせて創作した基本の技のプレ発表会	気を合わせて行うための方法について仲間の気づきや考え、取り組みの良さを認めている。 【主体的に学習に取り組む態度】
8 ／ 8 時間 目	目標 グループで創作した気の合ったカッコいい基本の技を発表しよう 内容 ①剣道の体ほぐし（2人組のジャンプ、胴と垂を着けてぞうきんがけ競争） ②グループごとに発表会 ③みんなで審査会（相互評価）	仲間と気を合わせて、創作した基本の技を力強く行っている。【知識・技能】

③第5・6学年 保健体育科指導案の例（1／8）

1. 単元名 「体づくり運動」 体ほぐし

（1）本時の目標

【主体的に学習に取り組む態度】 剣道に積極的に取り組もうとしている。

時配	学習内容と活動	学習形態	指導上の留意点	評価 (体づくり運動を参考)
導入 10分	①「剣道って知ってる」？  ・ 剣道ってどんなスポーツだろう。	一斉	- 子どもたちの興味、関心のあることを発表させる。(鬼滅の刃など…) - 剣道の特性を分かりやすい言葉で伝える。 ・ 大きな声 ・ 気を合わせる ・ カッコいい - 剣道はとっても相手を大切にすることを理解させる。	・ 剣道に積極的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
	②剣道の礼法（立礼） 	一斉 ペア	- 礼法（立礼）について説明しグループや2人組で行わせる。 - 礼（禮）の意味を分かりやすく伝える。 - 相手を尊重して行わせる - 相手と気を合わせて行わせる。 - 自己を律することの大切さを伝える。 - 対人性を重視し、相手と目と目で気を合わせて行わせる。	
展開 30分	③剣道じゃんけん	ペア	竹刀の代わりに手刀で構え、ペアで同時に「ヤー」と掛け声を発して、予め決めておいた元立ちが瞬時に小手・面・胴のどれかに片手または両手を移動する。相手が元立ちの動きにつられて同じ個所に移動したら負け。	
	④じゃんけん手のひら攻防ゲーム		剣道の攻防の要素を対人ゲームとしての剣道の体ほぐしで楽しみながら体験させることで、竹刀をもって対峙する技の攻防楽しむことへの系統を図る。	
	⑤じゃんけん足タッチ攻防ゲーム 1 分間 	ペア	- 同様にペアで握手し、じゃんけんを行う。勝った方は相手の前足の甲にタッチしに行き、負けた方は前にある足を引く。 - 足のつき方を説明し、グループを作り、すり足で鬼ごっこを行わせる。 - じゃんけんをして、最初に勝った方がいろいろなポーズを取りながら体育館を縦横無尽に動き回る。負けた方は勝ったペアの動きを真似しながら鬼ごっこのように追いかける。	
整理 5分	・ 学んだことを学習ノートにまとめ発表する。	一斉	- 剣道の特性に触れ、新しく学んだことを発表させる。 - 礼法（立礼・座礼）については、日常生活と結びつく形で授業の中で習慣化させる。	

3. 剣道の楽しい動機づけ

子どもたちに剣道に対する興味・関心を持たせる楽しい動機づけを紹介する。

雰囲気を和ませる要素を含んだ対人を中心としたゲーム的な活動で、剣道の基本的な特性に触れながら、心と体をほぐすことが狙いである。

剣道の特性とは、お互いに大きな声を出すこ

と、剣道の構えに慣れること、相手の目を見て行う礼法、かっこよく素早い反応動作を身につけるなどがある。このような体験をすることで、竹刀を持って向き合う技の攻防を楽しむことにつなげていく。



【楽しい動機づけ】



【手刀で手拭い切り】



【剣道じゃんけん】



【新聞切り】



【じゃんけん手のひら攻防ゲーム】



【新聞球切り】



【送り足じゃんけんリレー】

メモ

